

アグスチャン・リザル研究員（インドネシア）



はじめまして。私はインドネシアから来ました、アグスチャン・リザルと申します。インドネシアでは国家防災庁（BNPB）というところで働いています。BNPB は 2008 年に設立された国レベルの防災担当機関で、主に災害予防や災害時における緊急対応、復興復旧活動の活動を実施しています。また、近年ではインドネシア国内の各州や県市においても同様の防災担当機能を持った地方防災局（BPBD）が設立されています。

地理的に見ると、インドネシアは北緯 6 度から南緯 11 度、東経 97 から 141 度で、赤道直下に横たわる国で、気候は熱帯性気候です。また、インドネシアは 17,508 もの島々を有し、国内は 33 の州で構成されています。総面積は 520 万平方キロで、人口はおよそ 2 億 3800 万人（世界で 4 番目に多い人口）です。

自然災害の視点で見ると、インドネシアは毎年様々な種類の災害に直面しています。これはインドネシアが環太平洋火山帯に属し、ヨーロッパプレート、太平洋プレート、インド・オーストラリアプレートの境界上に位置しているからです。これらのプレートテクトニクスの活動に起因して、多くの地震（1日に20回程度発生）や火山活動（128の活火山）が頻発しています。また、熱帯性サイクロンも多く、関連した災害である洪水や鉄砲水、干ばつ、豪雨なども発生しています。

BNPB のビジョンは、自然災害に立ち向かい豊かな国作りを目指すことにあります。これは ADRC の活動とも調和しています。アジア各国における防災に関するプログラムを通じてコミュニティの防災能力を高め、また、多くの国々と連携したネットワークを構築させることが重要になります。

ADRC の客員研究員プログラムは、私にとって防災に関する知識を深めることができる大変素晴らしい機会です。この客員研究員プログラムにおいては、災害準備や予防、災害管理、コミュニティレベルの早期警戒システムについて学びたいと思います。機会があれば、東日本大震災の被災地を訪問したいと思います。今回のプログラムで得られる経験が、帰国後の私の業務において、必ず役立てられるように頑張りたいと思います。

最後に、今回来日の機会を頂いた ADRC およびメンバー国の関連機関の皆さん、日本政府にお礼を申し上げたいと思います。合わせまして、インドネシア政府および BNPB におきましても、感謝を申し上げます。